

これからも古民家を残せるように

赤岡中学校生徒会古民家清掃ボランティア

担当／広報編集委員 井上桂子



12月3日(金)赤岡中学校生徒会による古民家清掃ボランティアが行われました。

この活動は、みんなで町内のごみ拾いや清掃をして校区をきれいにするというボランティア活動が原点です。2017年、高知高専の北山めぐみ先生の出前授業が縁となり、「すてきなまち 赤岡プロジェクト」のコロナが実現して以来5年間ずっと続けられてきています。

当日は、北山先生による授業の後、8カ所の商家に移動して全校生徒が清掃活動を行いました。

授業：赤れんが商家がつなぐもの～町家再生を通したひと育て、まち育て～

『間口が広くて奥に長く、いくつも建物があつたなんて知らなかった』
 『窓が多く通りに面していて、誰もが気軽に立ち寄れる場所になっていたんだ』
 『これからたくさんの人が来てにぎわえばいいな』
 『学んだことを家族にも話したいし、地域の人にも知ってもらいたい』
 『全部を新しくするのはではなく、昔の部分を残しておくことはすてきなことだと思う』

『赤れんが商家は初代赤岡村長だった小松与衛門という人が明治時代に建て、その後酒屋、靴屋、たばこ屋として使われてきました』
 『150年ほど経っているので傷みが激しく、みんなで直すことによって町のシンボルとして次の世代へつないでいきます』
 『使われている木や土や石をリサイクルして、環境にやさしいリフォームをすることは、SDGsにつながります』



清掃を通して、土佐の建物の造りや技術を目の当たりに

赤れんが商家



今と昔の違いを感じながら掃除ができた!

また来年もきれいにしたい!



水を流して土間を洗うと、れんがの床が見えてきた!

ハマダ化粧品店

1801年に建てられたというお墨書きが見つっている。



普段できないところをきれいにしてくれてありがとう

野島家

隣の材木屋(今の金沢家)の住居として建てられ、昭和期になると飲料水の製造・販売を行った。

病気で掃除ができていなかったから助かる、と言ってもらえた!



金沢家

江戸時代は材木屋だったという。店内にはその名残が見られる。



窓がピカピカになってうれしかった!

川村家



赤岡の歴史を感じることができた

料亭「菊水楼」として使われていた。昭和20年代に自転車屋になった。

絵金蔵

昔の文化はおしゃれたな～



昭和初期に建てられ、農協の米蔵として使われてきた。今は絵金の芝居絵の収蔵庫として、展示も行われている。

おっこう屋

脇本陣(大名が参勤交代の時に泊まる宿)で、伊能忠敬も泊まったといわれる。

拭き残しが無いように拭くのは大変!

店の外も中もきれいに!



弁天座

大正時代に建てられた芝居小屋。15年ほど前に今の建物に建て直した。



少し見えた舞台は、迫力があつた!